

# 政党・市民の大同団結で、 名古屋市政を変えましょう



## 空白の12年。思いつきの 市政を終わりに

弁護士・元名古屋市副市長  
岩城正光さん

現市長の市政12年を振り返って、一言で言えば「空白の12年間」であったということです。僕は現市長のような「良識のない、無責任な人」と今まで仕事をともにしたことはありませんでした。現市長の元で副市長を経験して、「なぜ市民はこんな市長を選ぶのか。」とか、「民主主義の敵は民主主義なのかもしれないな。」と、ため息ばかりをついていました。それでも市の職員と一緒に政策を協議したり、仕事をともにできることは、僕の有意義で大切な人生の経験でした。

今こそ、現市長を変えなければなりません。これ以上の無責任で思いつきの市政運営を続ければ、本当に大切な市民サービスは悪化の一途をたどるからです。

今度こそ良識ある市長を誕生させましょう。



## 緑あふれる やさしい名古屋を

環境活動家 尾形慶子さん

私が名古屋市民に訴えていたのは、環境と女性です。どちらも社会から無視されてきました。コロナ禍で犠牲になっている女性たちをもっと支援すること、大胆な温暖化対策を行うことが、今、必要です。私は政治戦に挑戦できませんでしたが、同じ思いの人、あるいは必ずしも同じでなくても、市民と話し合っただけの道を選ぶ人を私は応援します。そのためには、多様な価値観、生き方を認める民主主義が不可欠です。民主主義を脅かした不正リコール事件の関係者は責任を取るべきです。民主的な市政によって、緑あふれる、やさしい名古屋を作りましょう。



## 市政を私物化する 市長を変えましょう

弁護士 田巻紘子さん

現市長はこの12年間、既得権益とたたかう庶民派と見せかけて、市政の私物化をすすめてきました。市長職以外の収入源が自分にあるからできた市長報酬削減、市の予算をつぎ込んだ名古屋城天守閣木造化、そしてコロナ対策で連携すべき県知事のリコール運動「応援団」などです。トップが市民生活を省みない中、市の職員の方たちが市民生活を支えています。でも「魚は頭から腐る」という諺のように、私利ばかりのトップの下では職員の方たちの士気が下がり、組織のガバナンスも緩んでいきかねません。そのとき市民の暮らしはどうなるでしょうか。

市政を私物化する市長を変えましょう。



## 「表現の自由」を守る ため声をあげましょう

「表現の不自由展その後」をつなげる  
愛知の会 事務局長  
高橋良平さん

「表現の不自由展その後」に公金投入することが許せない、という現市長の主張は憲法21条に定められた表現の自由の侵害です。自治体の首長が憲法違反を行う、しかもそれに市民を扇動して、かつその責任を取らず逃げる。そんな人物にはそもそも出馬する資格などありません。また南京大虐殺事件の否定、旧日本軍性奴隷問題の否定、といった歴史改ざんの行き着く先は事実誤認にもとづく間違った政策決定と市民に分断をもたらす政治です。

現市長を退陣させるために、今こそ私たち市民が声を上げ行動することがもとめられていると思います。がんばりましょう！

## 人種差別問題、気候変動、コロナ危機のもとで 世界でも市民の大同団結で政治が変わっています

昨年11月のアメリカ大統領選挙では、人種差別問題などあらゆる問題で分断と対立をつくりだしたトランプ大統領を選挙で退陣させようと、白人、黒人、ヒスパニック、アジア系、先住民などの枠を超えて草の根で広範な抵抗運動のうねりがわき起こりました。特に若者の間では人種差別問題、気候変動、コロナ問題で関心が高く、投票率が大幅に上昇しバイデン氏に投票した若者は6割以上となりました。



トランプ大統領を選挙で退陣させようと集まった市民